



## 神社に、どうして「こまいぬ（狛犬）」がおいてあるの

### 「こまいぬ」は魔よけ

お正月に神社に初詣に行くと、神社の入り口や、神様が祭ってある社殿の前などに、「こまいぬ」がおいてありますね。

こまいぬは、向かい合わせに一对あり、石や金属などからできていて、獅子（ライオン）や犬に似た顔かたちをしています。昔は、このこまいぬを、玉座（天皇が座るところ）の前や、神社の社殿の前などにおいて、威厳をそえ、魔よけとしたのです。

こまいぬは、昔、朝鮮半島にあった高句麗（高麗）という国から伝わったといわれています。もともと「高麗犬」という意味なのです。「高麗」と書いて、「こま」と読み、高麗から伝わった犬だから、「こまいぬ」というわけです。

日本では、漢字で「狛犬」と書きます。

### 「阿吽」と、阿吽の呼吸

左右一对のこまいぬの口元を見ると、片方は口を開き、もう一方は、口を閉じています。これを「阿吽」の形といいます。口を開いたのを「阿形」といい、口を閉じたのを「吽形」といい、同じようなものが、お寺に行くとみられます。お寺の入り口に立っている左右一对の仁王様も、阿吽の形をしています。

「阿吽」には、「はく息」と「すう息」という意味もあります。また、「阿」は、口を開いて出す音声を表し、「吽」は口を閉じて出す音声を表します。

いっしょに仕事や動作をするときの、ぴったりと合った調子のことを「阿吽の呼吸」といい、「阿吽の呼吸で立ちあがる。」などと使います。（監修・青木 国夫）

